

生存科学研究ニュース

Vol. 38, No.4

2024.1 発行

発行 公益財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

tel: 03-3563-3518 fax: 03-3567-3608 email: office@seizon.or.jp http: //seizon.umin.jp

2024 年 新しい年を迎えて

理事長 松下 正明



2024 年、令和 6 年の辰年、明けましておめでとうございます。

生存科学研究所の本年最初の企画ですが、1 月 8 日、第 10 回生存研シンポジウム「生命科学(ライフサイエンス)から生存科学へ」がオン

ラインで開催されました。総合的人間学でもある生存学・生存科学の問題意識を明確にすることを意図したシンポジウムで、人間という生物が、他の生物と共存しながら、地球、世界、日本、地域で、自然環境に囲まれ、多様な社会・歴史・文化をもって、豊かに生存しうる基盤を科学的に明らかにしたいという願いをこめた会となりました。

2024 年の今年、生存科学研究所が設立されて 40 年を迎えることとなります。それを記念して、「生存科学研究所」の歴史の編纂、記念シンポジウム開催など種々の企画を現在検討中ですが、生存学・生存科学の基盤を明らかにしたいという上記の第 10 回生存研シンポジウムがまさに記念行事の狼煙となりました。

いい機会ですから、生存学・生存科学の分野での私自身の関心事に触れてみたいと思います。私は精神科医、専門は老年精神医学ですが、それに関わるテーマです。

周知のように、WHO が、「ヘルシー・エイジングに向けての国連の 10 年、2021-2030」というテーマを掲げ、健康な加齢を促して、老人、家族、地域の人たちの生活を豊かにするために、1) 老人にとっての優しい環境の整備、2) エイジズム

との闘い、3) 総合的なケアの実現、4) 長期にわたるケアの存在、の 4 つの領域での活動に取り組んでほしいと訴えました。

エイジズムは、1969 年、米国のある地域で貧しい高齢者用のアパート建築案に対して地域の住民が猛烈な反対運動をおこした現象に対して、精神科・老年科医である R バトラーが、人種差別(race-ism)、性差別(sex-ism)に倣って、老人であるというそれだけの理由で差別をする現象を老人差別(age-ism, ageism)と名づけたことに由来します。

エイジズムは世界の各地で遍く存在していることが報告されてきました。米国でのエイジズムは、医療・看護・介護、ナーシングホーム、非常事態(自然災害など)対応、職場、メディア、マーケティングにおいて顕著にみられる現象といわれましたが、日本でもまったく同様だと私は考えています。

エイジズムの発生とその帰結に関しては、ステレオタイプとしての否定的老人観(老人偏見) ⇒ エイジズム(老人差別) ⇒ 老人虐待 ⇒ 老人殺害という図式が成り立ちます。たとえば、日本では、2005 年、「高齢者虐待防止法」が公布され、2006 年以来、毎年、一般家庭と養介護施設の 2 つの場での虐待の実態が報告されることになりました。嘆かわしいことに、2021 年まで、2 つの場ともに年々虐待数が増加の一途を示しています。エイジズムが日本でも根深く広がっていることの証左です。

社会におけるエイジズム廃絶の闘いについて考えることは、まさに老人の生存の意味を問うことにほかならないと思います。というわけで、私は 2024 年も老人の生存をおびやかすエイジズムについて論じていくつもりです。

(東京大学名誉教授)

Covid-19パンデミックの経験から、
今と将来を考える
—パンデミックは終わったのか—
医療政策研究会 責任者 神谷 恵子

医療政策研究会は、生存科学研究所の支援のもと過去 15 年余り医療者を中心とする多職種メンバーにより、医療事故の責任、医療事故の調査、医療安全、医師の過重労働などを主たる研究課題として政策提言や研修会などを行ってきました。

また、2020 年からの Covid-19 パンデミックに際しては、感染症法、新型インフルエンザ等特措法、検疫法の改正などや、医療提供体制の提言をするとともに医療現場の声に学ぶ活動をしてきました。

これらにつきましては、生存科学研究所医療政策研究会の HP(<http://seizonken.com/index.html>)からご覧いただけます。そして、昨年5月には、Covid-19 が感染症法の2類相当から5類に変更され、私たちの生活は落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、昨年の夏頃は、未だ医療現場では第8波到来かとも言われ、巷との乖離が大きい時期でした。

そのため、『Covid-19 パンデミックの経験から、今と将来を考える—パンデミックは終わったのか—』と題して、Covid-19 が感染症法の2類相当から5類に変更されたことにより何が変わったか、将来の新感染症対策としてどうしていくべきかなどにつきまして、コロナ最前線におられる医療者やそこに携わった方々を中心にお話を伺う企画をいたしました。

この企画により、私たちが経験したことのない歴史的なパンデミックにおいて学んだことを、生の声として記録に残し、後世につなげていきたいと考えた次第です。現在生存科学研究所のHPから順次、公開しております。現在公開中は次の通りですが、総勢10名を予定しております。

- 1) 地方独立行政法人 奈良県立病院機構
奈良県総合医療センター
総長 上田裕一先生

●Covid-19 パンデミックの経験から、今と将来を考える

パンデミックは
終わったのか

上田裕一

地方独立行政法人 奈良県立病院機構
奈良県総合医療センター 総長

公益財団法人
生存科学研究所医療政策研究会



1

- 2) 名古屋大学医学部附属病院
副病院長 長尾能雅先生

●Covid-19 パンデミックの経験から、今と将来を考える

パンデミックは
終わったのか

長尾能雅

名古屋大学医学部附属病院 副病院長
患者安全推進部 教授

公益財団法人
生存科学研究所医療政策研究会



2

- 3) 医療法人徳洲会 羽生総合病院
院長 高橋暁行先生

●Covid-19 パンデミックの経験から、今と将来を考える

パンデミックは
終わったのか

高橋暁行

医療法人徳洲会 羽生総合病院 院長

公益財団法人
生存科学研究所医療政策研究会



3

- 4) 淀川キリスト教病院 救急科・集中治療科
救急センター長 夏川知輝先生

●Covid-19 パンデミックの経験から、今と将来を考える

パンデミックは
終わったのか

夏川和輝

淀川キリスト教病院 救急科・集中治療科 部長
災害人道医療支援会(HuMA) 常任理事
大阪公立大学医学部 臨床教授

公益財団法人
生存科学研究所医療政策研究会



4

- 5) 小田原市立病院 救命救急センター
担当部長 梅鉢梨真子先生

●Covid-19 パンデミックの経験から、今と将来を考える

パンデミックは
終わったのか

梅鉢梨真子

小田原市立病院 救急科 担当部長

公益財団法人
生存科学研究所医療政策研究会



5

これまでの医療者の皆様の声を聴くと、ある程度、上手くいった点、難しかった点として抽象化し、後世への財産とできるようなものが浮かび上がってくるように思えます。まだ最後まで配信できておりませんが、キーワードとしては、正しい医療情報に基づくリーダーシップ、スタッフのケア、スピード感のある情報発信、デジタル的な情

報共有、BCPに基づく事前準備、個室病室や病棟の動線確保等々のように感じます。これまでの配信及び今後の配信によっても、まだまだ将来に生かせるキーワードは増えてくるものと思われまます。皆様におかれましても、是非、YouTube チャンネルによる配信をご覧いただき、次の新感染症や予期しない災害に対する医療の提供体制等の学びや備えにさせていただきますと幸甚に存じます。なお、ご意見や感想がありましたら、YouTube のコメント欄にお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

(神谷法律事務所 弁護士)

第 11 回生存科学研究所共催・
市民公開講座開催報告

本田 美和子

生存科学研究所のご支援をいただき毎年続けてきた包括的ケア技法ユマニチュードに関する市民公開講座も、今年で 11 回を迎えました。2023 年 9 月 4 日に開催された今回のテーマは『ユマニチュード認証施設：人生の最期の日まで「自律と自立が実現する生活の場」の創出』といたしました。フランスでユマニチュードに取り組んだ施設の「自分たちが行なっているケアの質を客観的に評価したい」という強い要望から誕生したユマニチュード認証制度は、ついに日本でも「日本版ユマニチュード認証制度」のキックオフをむかえることができ、9 月までに 2 つのブロンズ認証施設が誕生しました。今回はこの意義を考え、認証に取り組むことで生まれる組織の変容と将来像について語り合いました。

冒頭、本プログラムを継続して支援くださっている公益財団法人生存科学研究所 第 6 代理事長故青木清先生の在りし日のお言葉や映像をご紹介いたしました。いつも優しく、力強く私どもの活動を支えてくださった青木先生を出席者全員で偲ぶと同時に、先生からいただいた応援のメッセージを改めて拝聴することで、心構えも新たに先生のご遺志を実現するために励んでまいりたいと思いを胸に刻みまました。

続く基調講演 1 では、まずユマニチュード考案者であるイヴ・ジネスト先生がユマニチュード認証制度の基本理念についてお話しになりました。



イヴ・ジネスト先生(左)

通訳:本田美和子(日本ユマニチュード学会代表理事)

認証とは「良い生活の場」の実現であり、そのために、ユマニチュードの 5 つの原則(1：強制ケアをゼロにする。しかし、ケアは諦めない。2：本人の唯一性とプライバシーを尊重する。3：最期の日まで自分の足で立って生きる。4：組織が外部に対して開かれている。5：生活の場・やりたいことが実現する場を作る)を施設の基盤とし、さらに「利用者/患者」「職員」「施設経営者」の三者がそれぞれを尊重することが必要であるという「ユマニチュード生活労働憲章」に関するジネスト先生の講演は、良いケアを目指す専門職や施設経営者のみならず、家族にとっても良き指針となるものでした。



竹内登美子先生
(富山県立大学名誉教授)

次いで、ユマニチュード認証の審査委員長である竹内登美子先生(富山県立大学名誉教授)による基調講演 2「日本におけるユマニチュード認証：求められる哲学と確かなケア」を伺いました。医療・福祉の専門家が尊厳を尊重したケアを行いたいと心で願っていても、現状ではそれが実現できずに疲弊する状況に対する解決策としてユマニチュードへ取り組む意義、とりわけ組織だった取り組みの重要性についてお話しくささいました。さらに 2022 年のフランス認証施設(ノルマンディーにあるジャンヌの家)の訪問を通じて得たユマニチュードの実践と評価に関する様々な知見をお示しくささいました。また、竹内先生がお引き受けくださっている、ユマニチュード認証審査委員長の立場から「ユマニチュード認証審査会」で交わされている議論の一部もご紹介になりました。看護教育および臨床看護の経験豊かな竹内先生は、急性期・慢性期いずれの状況であってもケアの現場において

ユマニチュード認証が重視する5原則と生活労働憲章は必要であると力強くお話しになり、ともすれば「慢性期の脆弱な高齢者のためのケア」と捉えられがちなユマニチュードが、実際はそうではないこと、とりわけ急性期の状況であるからこそ必要な技法であることを強調なさいました。

最後のシンポジウムでは、「日本のユマニチュード認証のこれから」をテーマに、ユマニチュード認証制度の設計に携わり、認証調査員としても活躍しているユマニチュード認定インストラクターの理学療法士森山由香様、今年度日本で初めてのユマニチュード認証を取得した施設から、株式会社不二ビルサービス ケア事業部次長の末弘千恵様と調布東山病院理事長で日本ユマニチュード学会理事の小川聡子先生も加わり、ジネスト先生、竹内先生と共にそれぞれの立場と経験から、「良いケアの場が実現するために必要なことは何か」について語り合いました。



末弘千恵様
(株式会社不二ビルサービス)

不二ビルサービスの末弘様は、ユマニチュード認証に取り組んだ経緯、実際の取り組みとそれに伴って生じた入居者と職員の変化、さらにブロンズ認証を得た成功のポイントにつ

いてお話しくささいました。会場からの「職員全員で取り組む難しさ」に関する問いには、「ユマニチュードを実践することが目的なのではなく、『なぜ私たちはユマニチュードに取り組むのか』を突き詰めて考えることが大切だ」とお答えになりました。調布東山病院の小川先生からは、認証取得後に職員の応募が増えたことから、病院が院内だけでなく外部からも「働きたい場」に変わった手応えを感じている、とお話しになり、これから認証に取り組みたいと考える方々にとって大変参考となるものでした。



シンポジウムの様子

来年は「自治体とユマニチュード」をテーマに福岡市で開催いたします。実りある活動を重ねて来年に臨みたいと思います。

(国立病院機構東京医療センター)

研究会等日報

- 11月16日(木) 資本主義の教養学公開講座
- 11月17日(金) 全体として人を見ること／診ること／看ること」研究会
- 11月20日(月) 疎地と都市部における高齢者の心理・比較研究
- 11月22日(水) みらいエンパワメントカフェ 「みらいを拓く力を育むあそびとおもちゃ～あそびを通じた子どもエンパワメント～」
- 11月25日(土) 「避難所地域のリスク情報コンテンツ製作」に向けた、成城学校地理研究部との連携で進める地域防災研究
- 11月29日(水) 患者が捉える医療者との「話し合い」の構成要素 -腎代替療法選択時の「話し合い」の経験から-研究会
- 12月11日(月) 過疎地と都市部における高齢者の心理・比較研究
- 12月15日(金) 「人類の安寧とより良き生存」シンポジウム
- 12月18日(月) 資本主義の教養学公開講座
- 12月22日(金) みらいエンパワメントカフェ 「発声によるエンパワメントとヒーリング～聴く・発声するメカニズムとヒーリング～」
- 12月22日(金) 生存の理法と現代社会の課題に関する実践的研究-人的環境に焦点を当てて-研究会
- 12月29日(金) 全体として人を見ること／診ること／看ること」研究会
- 12月29日(金) 生存の理法と現代社会の課題に関する実践的研究-人的環境に焦点を当てて-研究会
- 1月8日(月) 「第10回生存科学シンポジウム」オンライン開催
- 1月16日(火) 選考委員会